

U021-09

会場:304

時間:5月24日 11:45-12:00

## 富士山火山防災における防災教育-山梨県環境科学研究所富士山火山防災情報センターの取り組み- The center for volcano disaster prevention education on Fuji volcano hazard - attempt of FVDPIC, YIES

内山 高<sup>1\*</sup>, 藤田 英輔<sup>2</sup>, 小園 誠史<sup>2</sup>, 奥水 達司<sup>1</sup>  
Takashi Uchiyama<sup>1\*</sup>, Eisuke Fujita<sup>2</sup>, Tomofumi Kozono<sup>2</sup>, Satoshi Koshimizu<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 山梨環境研, <sup>2</sup> 防災科研  
<sup>1</sup> YIES, <sup>2</sup> NIED

### はじめに

富士山が噴火した場合には、地元市町村のみならず広範な範囲に影響が及ぶことから、国内閣府を中心に火山ハザードマップが作成され、それを基に地元自治体火山防災協議会により避難マップ等が作成された。このような中で、火山観測情報の共有体制構築と広報、火山防災教育の普及啓発の推進を図るため、山梨県環境科学研究所自然環境・富士山火山研究部に「富士山火山防災情報センター」の機能が併設された。火山災害を減じ、火山と共存していくうえで、火山観測情報の広報等と火山防災教育の拠点として期待されてのことである。

### 山梨県環境科学研究所の火山活動観測体制

山梨環境研では富士北東麓忍野村地内に低周波地震計を設置し、富士山の火山活動の観測体制における一端を担っている。観測データは、(独)防災科学技術研究所に送信され、同研究所の観測データとともに、解析される。その後山梨環境研にフィードバックされ、公開できるような体制になっている。さらに、高温のマグマや火山ガスが地下深くから上昇して来て地下水と接触することで、爆発的噴火に変化し、噴火様式が変化すると考えられる。このため、環境研では、富士北麓の4箇所に観測点を設けて、地下水変動、とくに地下水位、地下水温と水質の連続観測を実施している。

### 富士北麓での火山防災教育の普及・啓発と火山観測情報の発信

火山噴火による災害を減じ、火山とともに暮らしていくためには、火山現象そのものやその火山の歴史(噴火史)を学んでいく必要がある。また、火山による恵みとしての自然環境についても理解を深めていく必要がある。火山防災の点で県民等に分かり易い形で、情報・知識の提供・発信方法を防災科研と共同研究として行った。この結果は山梨環境研内で来館者が気軽にみられようモニターで公開している。

### 火山防災教育の普及・啓発の拠点として山梨環境研の取り組み

自然環境については、県内外から山梨環境研に環境教育等で訪れる児童・生徒向けに、環境情報センターで学習できるようになっている。これら環境学習と併せて、今回火山の知識や火山防災の学習ができるようイラストを多用し、解説文も理解しやすいように改訂されたものを開発し、今後公開する予定である。

今回山梨環境研におけるこれらの取り組みについて報告する。

キーワード: 富士山, 火山防災, 火山防災教育, 火山災害減災, 火山観測, 山梨県

Keywords: Mount Fuji, volcanic hazard prevention, volcanic risk mitigation, risk education, monitoring, yamanashi